

2021年1月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しのペースが鈍化している」との判断を維持しました。
- 需要項目ごとの判断は、観光について、「引き続き厳しい状況にあり、足もとでは弱い動きとなっている」と前月に続き下方修正しました。一方、住宅投資は、「持ち直している」と前月に続き上方修正しました。その他の項目には、変更はありません。
- 雇用や金融面については、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、12月、ほぼ前年並みとなりました。感染拡大が続く中で、外出に慎重となる動きが強まり、来店客の減少がみられました。衣料品は引き続き低調であるものの、巣ごもり需要を背景に日用品、食料品は、底堅い動きを維持しています。また、家電販売は、白物が堅調であるほか、テレビ、電子レンジが好調に推移するなど、全体として堅調な動きとなっています。
- 12月の新車登録台数は、除く軽が前年を幾分下回りましたが、軽自動車、軽自動車を含めた合計は、前年を上回りました。合計は、3か月連続のプラスです。もっとも、持ち直しのペースは、前月からさらに鈍化しています。自動車ディーラーの店頭では、感染症の拡大につれて来客数が減

少するなど、販売面への影響がみられています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、12月、感染症の影響が引き続きみられるも、全ての空港で前年を大きく下回り、全体でも前年を大きく下回りました。11か月連続の前年割れです。12月は、GoToトラベル事業の停止などもあり、前月に比べ、マイナス幅が拡大しました。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、12月は10か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、12月、地区によって多少差はみられますが、全体では前年を大きく下回りました。感染症の拡大やGoToトラベル事業の停止を受け、キャンセルの動きがみられたほか、新規予約も低調となっており、足もとでは弱い動きとなっています。旭川市内のホテル客室稼働率も、12月、前年を大きく下回りました。こちらも12月は、前年とのマイナス幅が前月に比べて拡大し、弱い動きとなっています。
- 各地観光施設の入込みは、12月、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーとも前年を大きく下回ったことから、合計でも前年を大きく下回りました。感染症の拡大を受けて、足もとでは弱い動きとなっています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、12月、上川、宗谷が前年を大きく下回ったことに加え、オホーツクが過去に取り扱った大型工事の減額補正を行い、マイナスとなったことから、全体でも前年を大きく下回りました。2020年4月以降、12月までの累計では、宗谷、オホーツクが前年を大きく上回ったほか、上川も前年を上回ったことから、全体でも前年を上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、11月、持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を上回りました。基調としては、持家が振れを伴いながらも徐々に持ち直しているほか、貸家は高めの水準となっています。分譲は概ね横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、11月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を下回りました。旭川は引き続き1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍超えとなったことから、全体では5か月連続の1倍超えとなりました。新規求人数は、11月、稚内が前年を上回ったものの、旭川、北見、網走が前年を下回り、この結果、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも、14か月連続で前年を下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、12月、前年を上回りました。12月まで22か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き、感染症の帰趨とその影響が最大のポイントになると考えています。とくに、①感染症の再拡大により、下押し圧力を受けている観光、消費の動向を、注意深く見ていきたいと思えます。また、②雇用、所得、企業収益や設備投資計画

への影響、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地建設業者の受注への影響、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上